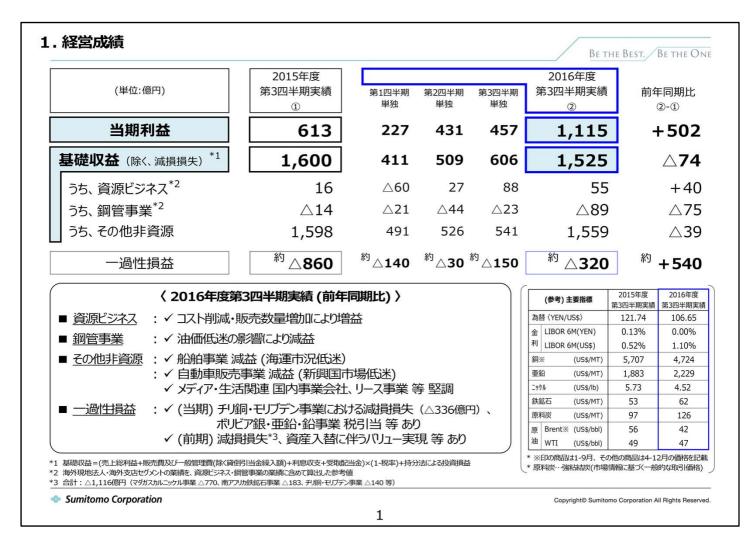
## 【ネットカンファレンス プレゼンテーション資料】 2016年度 第3四半期決算

# 2017年2月7日 住友商事株式会社

#### 将来情報に関するご注意

本資料には、当社の中期経営計画等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣が中期経営計画を成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

Sumitomo Corporation



当第3四半期累計当期利益:1,115億円(前年同期比+502億円)(主な要因)

✓ <u>一過性損益 約+540億円(約△860億円→約△320億円)</u>

前年同期:マダガスカルニッケル事業など複数資源案件で

約1,100億円の減損損失を計上

当 期:チリ銅・モリブデン事業の減損損失336億円など

▶ 基礎収益(除<、減損損失): 1,525億円(前年同期比△74億円)</p>

資源ビジネス:ニッケル、銅などの価格下落の影響があるものの、石炭、亜鉛などの

価格上昇、コスト削減、販売数量の増加などにより増益

鋼管事業 :油価低迷の影響によるパイプ需要の戻りが遅く減益

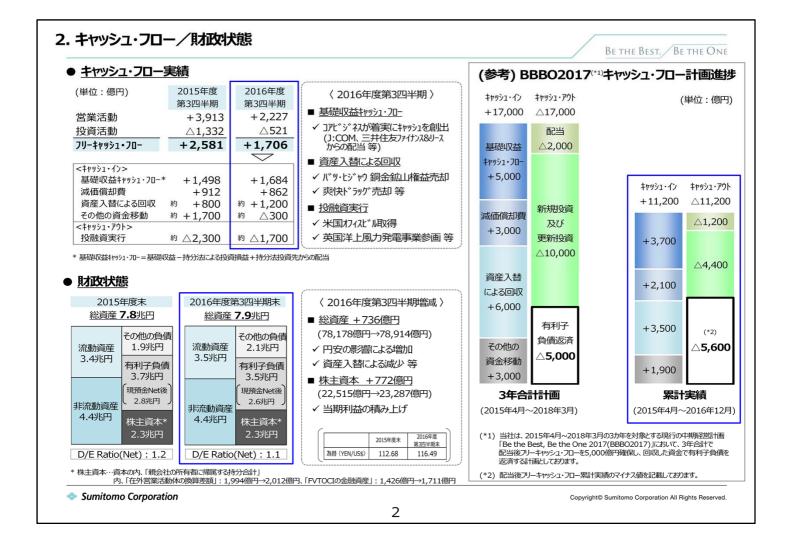
その他非資源ビジネス:メディア・生活関連の国内主要事業会社やリース事業が

堅調に推移した一方、船舶事業 及び 自動車販売事業が

低調に推移したことに加え、円高の影響もあり減益

▶ 基礎収益四半期トレンド

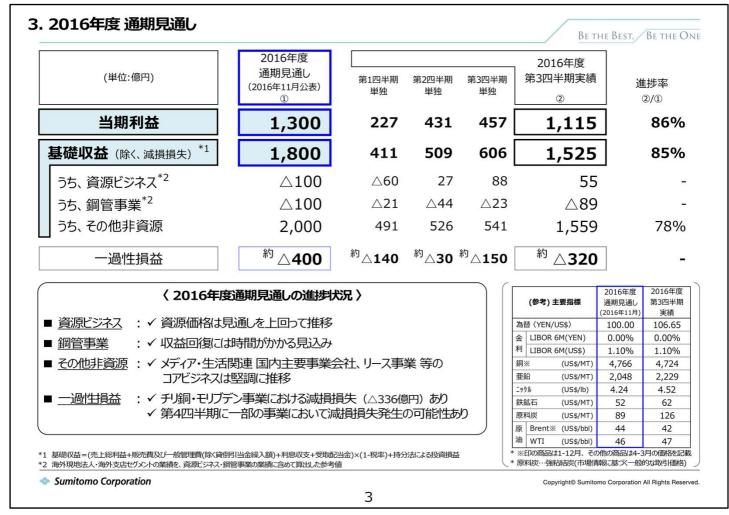
資源価格回復により資源ビジネスが増益基調となっていることに加え、 その他の非資源ビジネスが安定した収益を計上しており、全体では堅調に推移



- ▶ 当第3四半期累計フリーキャッシュ・フロー:1,706億円のキャッシュ・イン
  - ✓ 基礎収益キャッシュ・フロー: 1,684億円のキャッシュ・イン
  - ✓ 資産入替による回収:約1,200億円のキャッシュ・イン インドネシアのバツ・ヒジャウ鉱山権益や爽快ドラッグの売却など
  - ✓ 投融資実行:約1,700億円のキャッシュ・アウト 米国オフィスビルの取得や英国洋上風力発電事業参画など

## ▶ 財政状態

- ✓ 総資産 : 7兆8,914億円(前期末比+736億円) 資産入替による減少があった一方、円安の影響あり
- ✓ 株主資本: 2兆3,287億円(前期末比+772億円) 主に当期利益の積み上げによるもの



### ▶ 景況感

- ✓世界経済は、米国新政権の政策の影響や英国のEU離脱交渉、中東などの 地政学的リスクの高まりにより、先行きに対する不透明感は引き続き残るものの、 米国を中心に緩やかな成長が続くと見込む
- ✓また、国際商品市況は、商品ごとに強弱あるものの概ね堅調に推移すると見込む
- ▶ 通期見通し:2016年11月公表予想から修正を行っていない 第3四半期累計実績:当期利益、基礎収益共に85%以上の進捗
  - ✓資源ビジネス:チリ銅・モリブデン事業における減損損失が発生したが、

減損を除く基礎収益では、資源価格が想定を上回って推移しており、

足元の価格が継続した場合、通期見通しからの上振れを見込む

✓鋼管事業: 原油価格 及び リグカウントの底打ち感は出てきているものの、

業績の回復までには時間を要すると見る

✓その他非資源ビジネス:メディア・生活関連の主要事業を中心に 強含みで推移すると見込む

▶ 一過性損益:第4四半期に一部の事業で減損損失発生の可能性 基礎収益(除⟨、減損損失):第3四半期に引き続き堅調に推移し、

通期見通し1,800億円を上回ると見込む

⇒当期利益1,300億円は達成可能と見込む